

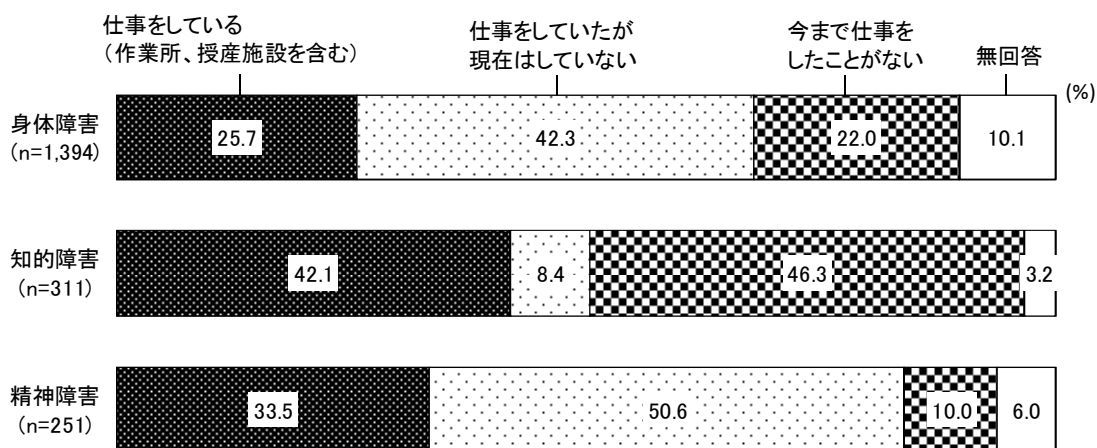
3 障害者福祉分野

(1) 障害のある人の調査

就労状況

現在、収入を伴う仕事をしているかたずねました。

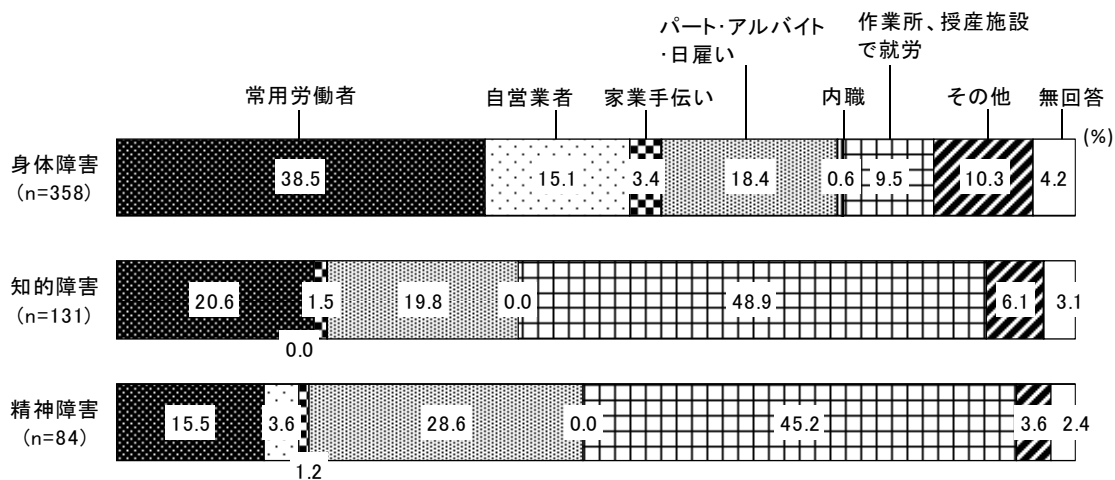
○「仕事をしている」の割合は、身体障害者で 25.7%、知的障害者で 42.1%、精神障害者で 33.5%となっています。



就労形態

仕事をしている人に就労形態をたずねました。

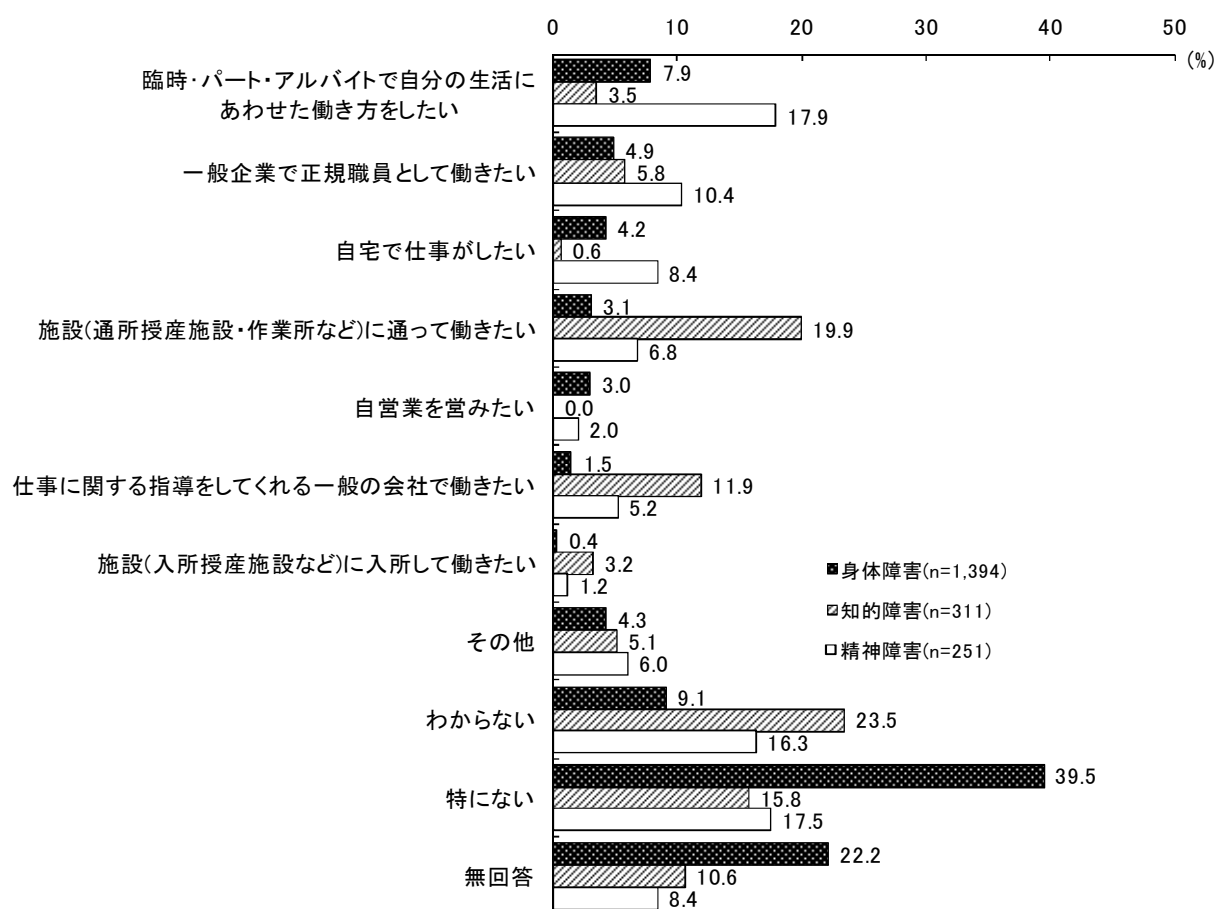
○身体障害者は「常用労働者(38.5%)」が最も多く、知的障害者、精神障害者は「作業所、授産施設で就労(48.9%、45.2%)」が最も多くなっています。



今後したい仕事

今後、どのような仕事をしたいかたずねました。

- 身体障害者は、「臨時・パート等で生活にあわせた働き方(7.9%)」が最も多くなっています。
- 知的障害者は、「施設に通って働きたい(19.9%)」が最も多く、「指導をしてくれる一般の会社で働きたい(11.9%)」が続いています。
- 精神障害者は、「臨時・パート等で生活にあわせた働き方(17.9%)」が最も多く、「一般企業で正規職員として働きたい(10.4%)」が続いています。



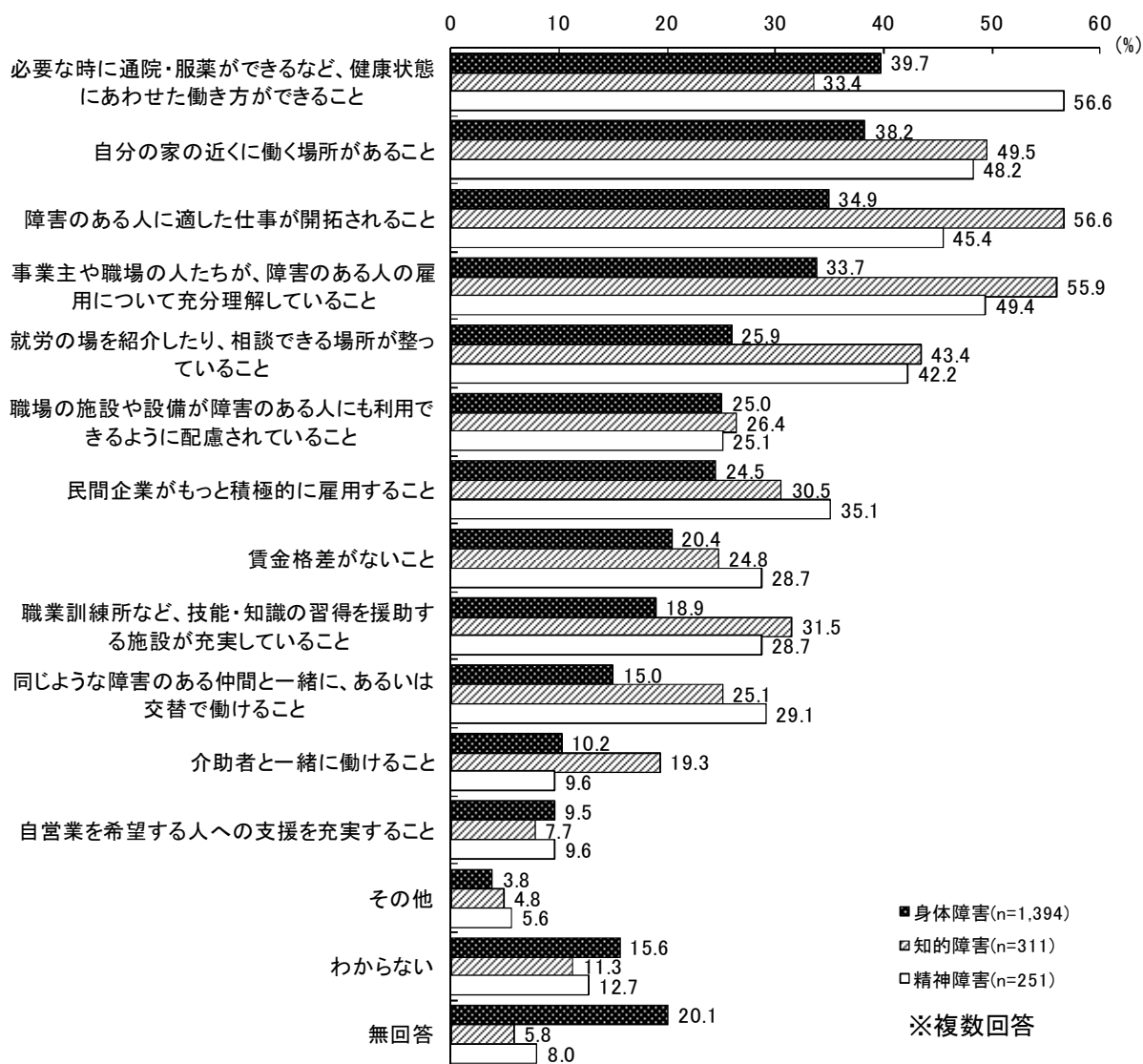
関連する自由回答の抜粋

- ・ 障害のある若者は大変だと思います。就労の機会や雇用の充実が図られれば良いと常に思っています。(身体障害、男性、65歳以上)【配偶者】
- ・ 府中市内で働けることが理想(働ける能力のある人は)。府中市内の企業、会社、店等で積極的に実習、雇用してもらいたい。(知的障害、男性、学齢期)【父母】
- ・ 特に精神障害の不調は理解してくれない人や職場が多々あると思います。それにより仕事を休むときに風邪と言って休むはめになり、体調管理ができない人だと思われてしまいます。府中市に限らず、全国的に理解してほしいです。(精神障害、女性、35～39歳)

障害のある人が働くために必要なこと

障害のある人が働くためにはどのようなことが必要かたずねた。

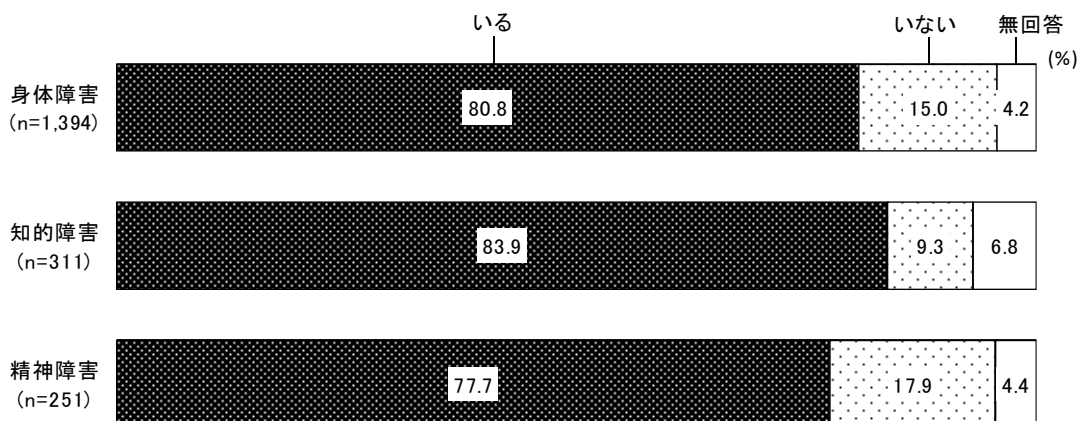
- 身体障害者は、「健康状態にあわせた働き方ができること(39.7%)」が最も多く、「自分の家の近くに働く場所がある(38.2%)」が続いています。
- 知的障害者は、「障害のある人に適した仕事が開拓される(56.6%)」が最も多く、「事業主等が障害のある人の雇用に理解(55.9%)」が続いています。
- 精神障害者は、「健康状態にあわせた働き方ができること(56.6%)」が最も多く、「事業主等が障害のある人の雇用に理解(49.4%)」が続いています。



相談できる人の有無

悩みや困りごとを相談できる人がいるかたずねた。

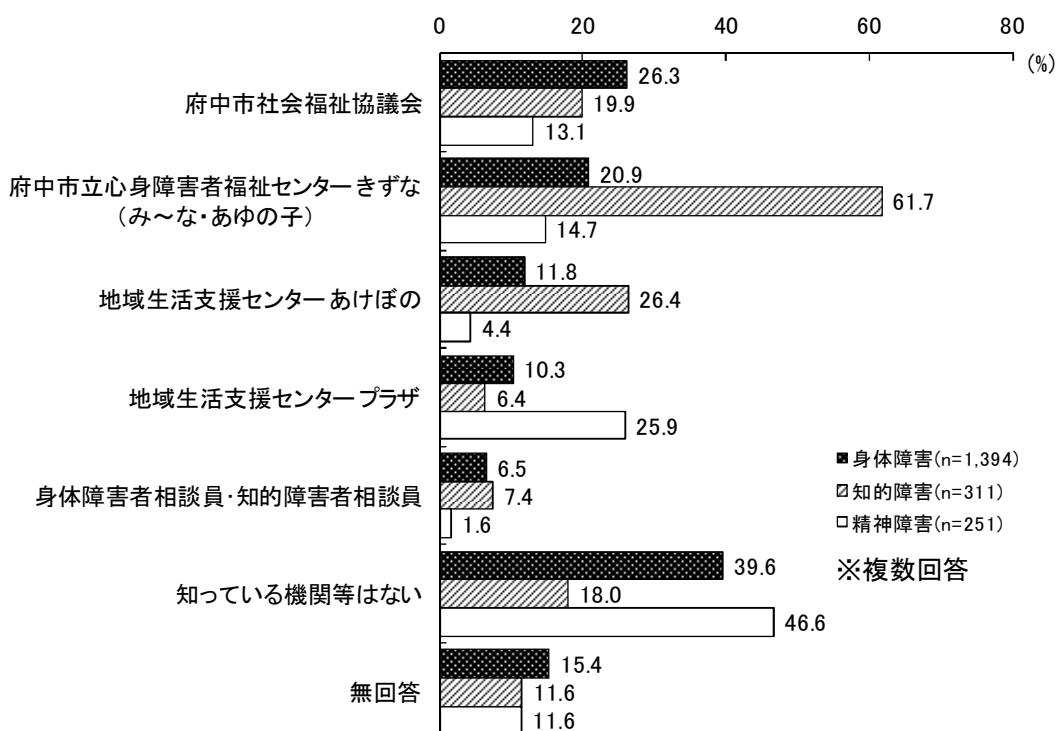
○相談できる人が「いる」の割合は、身体障害者で 80.8%、知的障害者で 83.9%、精神障害者で 77.7%となっています。



市内の相談機関等の認知度

府中市内の障害のある人の相談機関等で知っているところをたずねた。

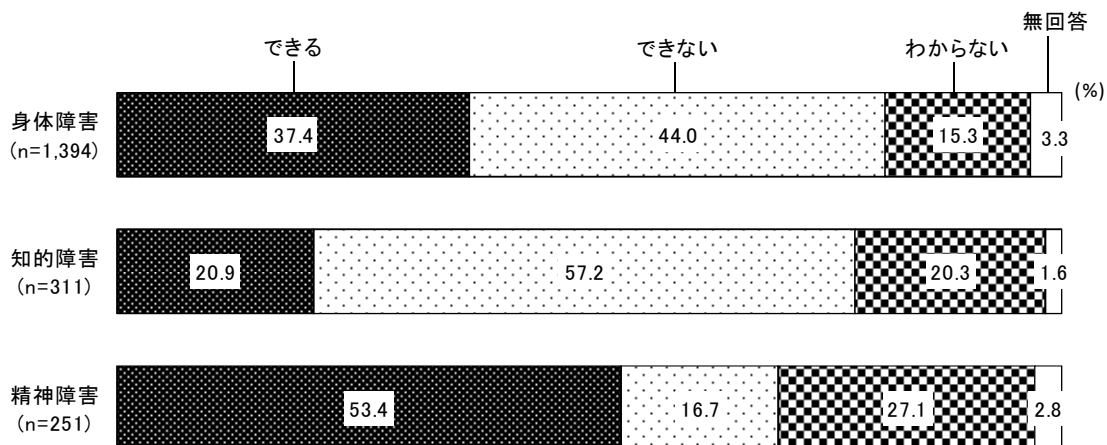
○「知っている機関等はない」の割合は、身体障害者で 39.6%、知的障害者で 18.0%、精神障害者で 46.6%となっています。



緊急時の単独避難

地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難できるかたずねた。

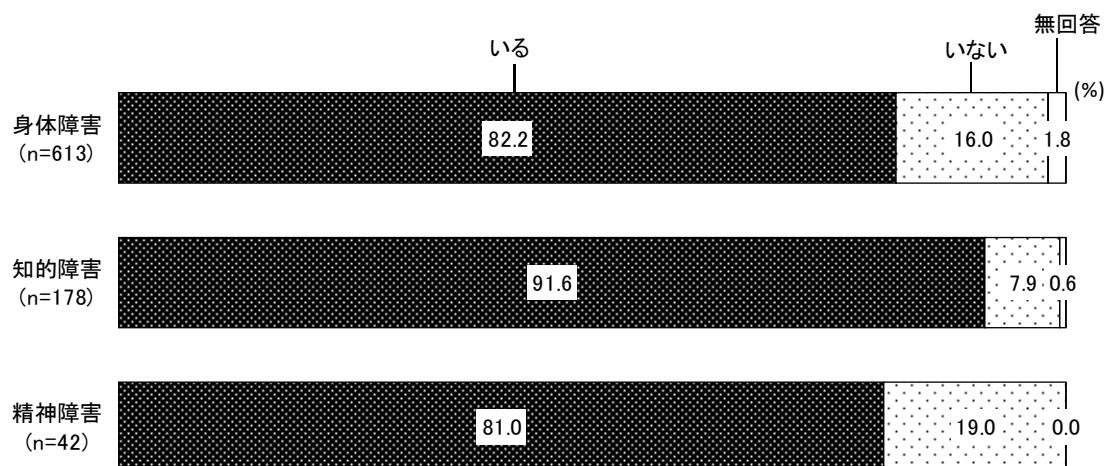
○緊急時の単独避難が「できない」割合は、身体障害者で44.0%、知的障害者で57.2%、精神障害者で16.7%となっています。



緊急時の援助者の有無

ひとりで避難できないと回答した人に、避難を助けてくれるような人がいるかたずねた。

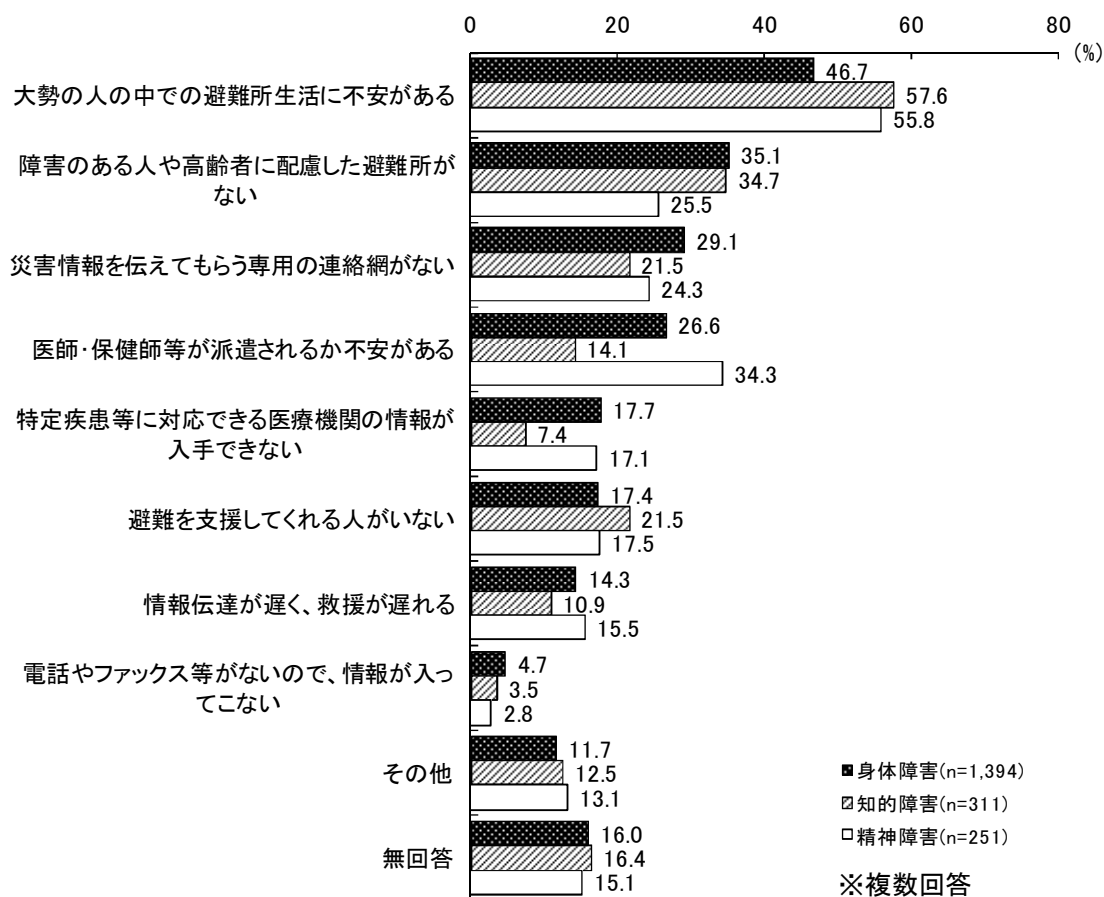
○避難を助けてくれるような人が「いない」割合は、身体障害者で16.0%、知的障害者で7.9%、精神障害者で19.0%となっています。



災害時の不安や心配ごと

災害時に困ること・不安なことをたずねた。

○3障害ともに「大勢の人の中での避難所生活が不安」が最も多くなっています。



関連する自由回答の抜粋

- ・ 目が不自由なので災害時は移動するよりも自宅ですべてできる限り安全を確保した方がよいのではと考えています。その場合、情報はきちんと得られるようにお願いしたいです。(身体障害、女性、65歳以上)
- ・ 防災体制がきちんと機能するのか不安な面がある。(男性、40～44歳)

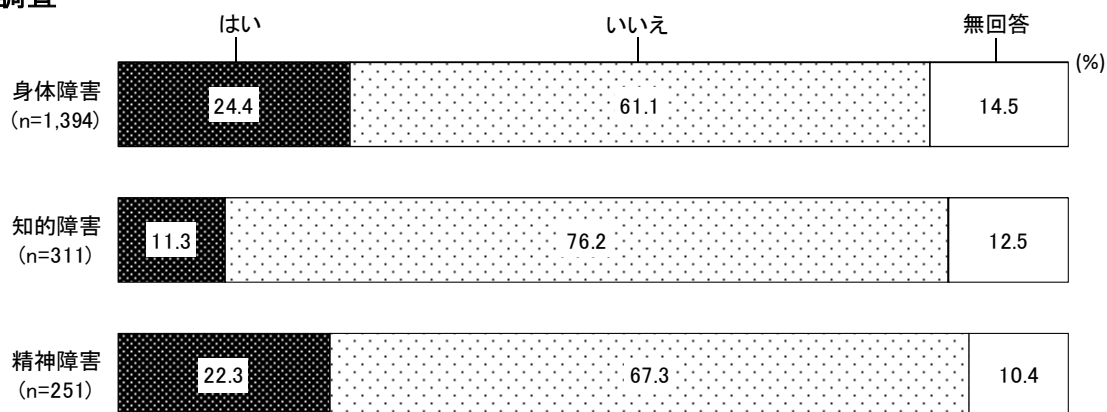
府中市民のノーマライゼーションの理解

共生社会(ノーマライゼーション)が府中市民に十分理解されているかたずねました。

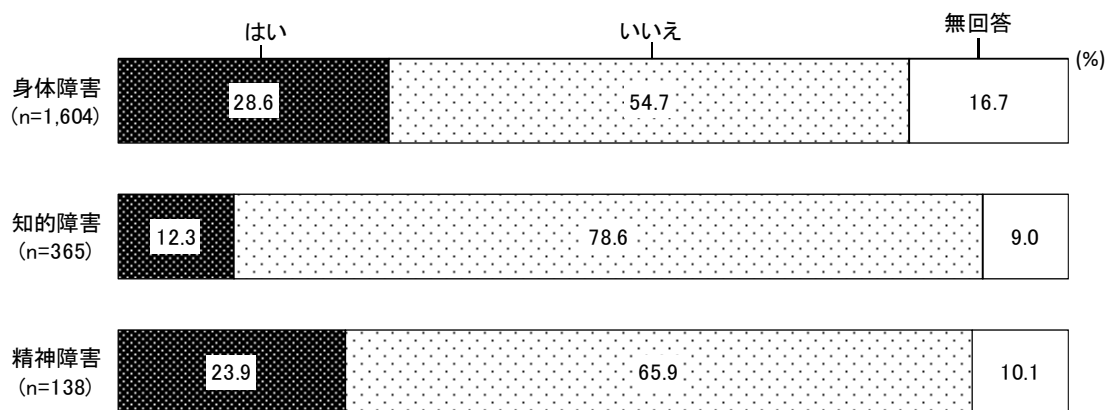
○ノーマライゼーションが理解されている(「はい」)の割合は、身体障害者で24.4%、知的障害者で11.3%、精神障害者で22.3%となっています。

○前回調査と比較すると、3障害ともに理解されているとする割合が低くなっている。

◆今回調査



◆平成19年度調査



解説《用語》

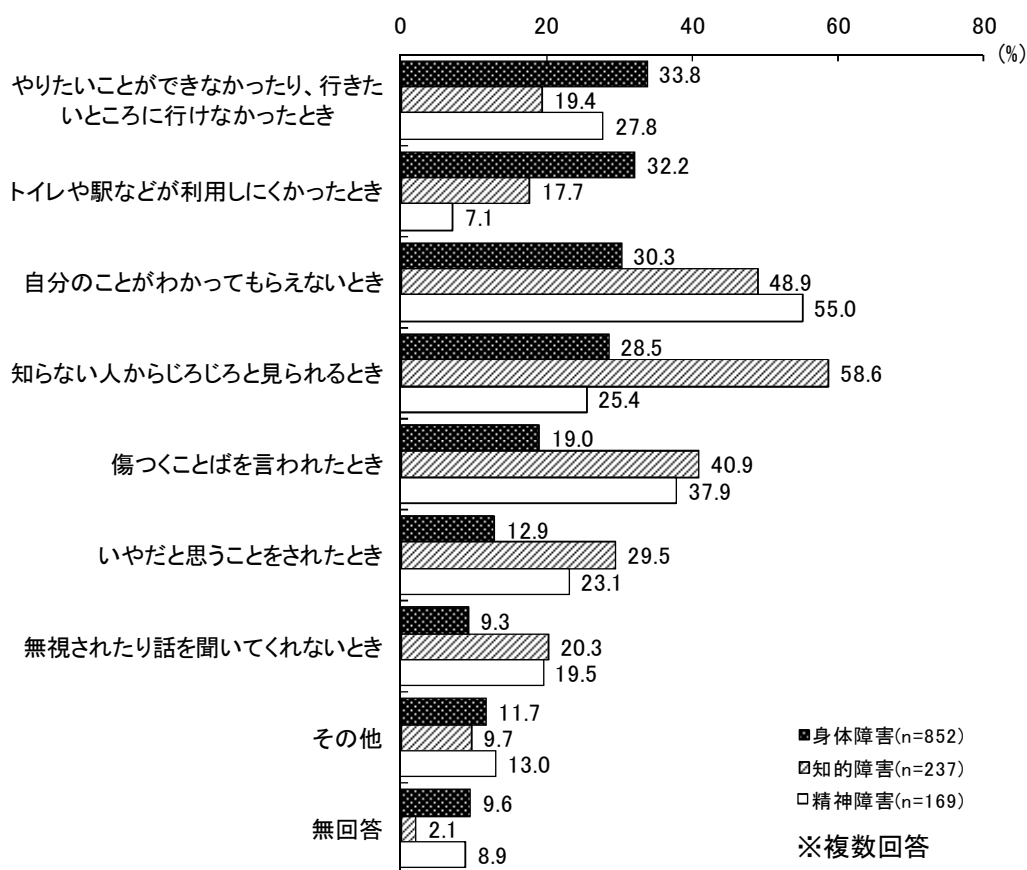
ノーマライゼーション

1950年代、デンマークの知的障害者の子を持つ親たちの会が、巨大な障害者施設の中で多くの人権侵害が行われていることを知り、その状況を改善しようと始めた運動から生み出された考え方で、提唱者のバンク・ミケルセンを「ノーマライゼーションの父」と呼んでいます。わが国の障害者基本計画では「障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルな社会であるとの考え方」と定義しています。

ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき

共生社会(ノーマライゼーション)が市民に十分理解されていないと思うと回答した人に、どのような時に感じるかたずねました。

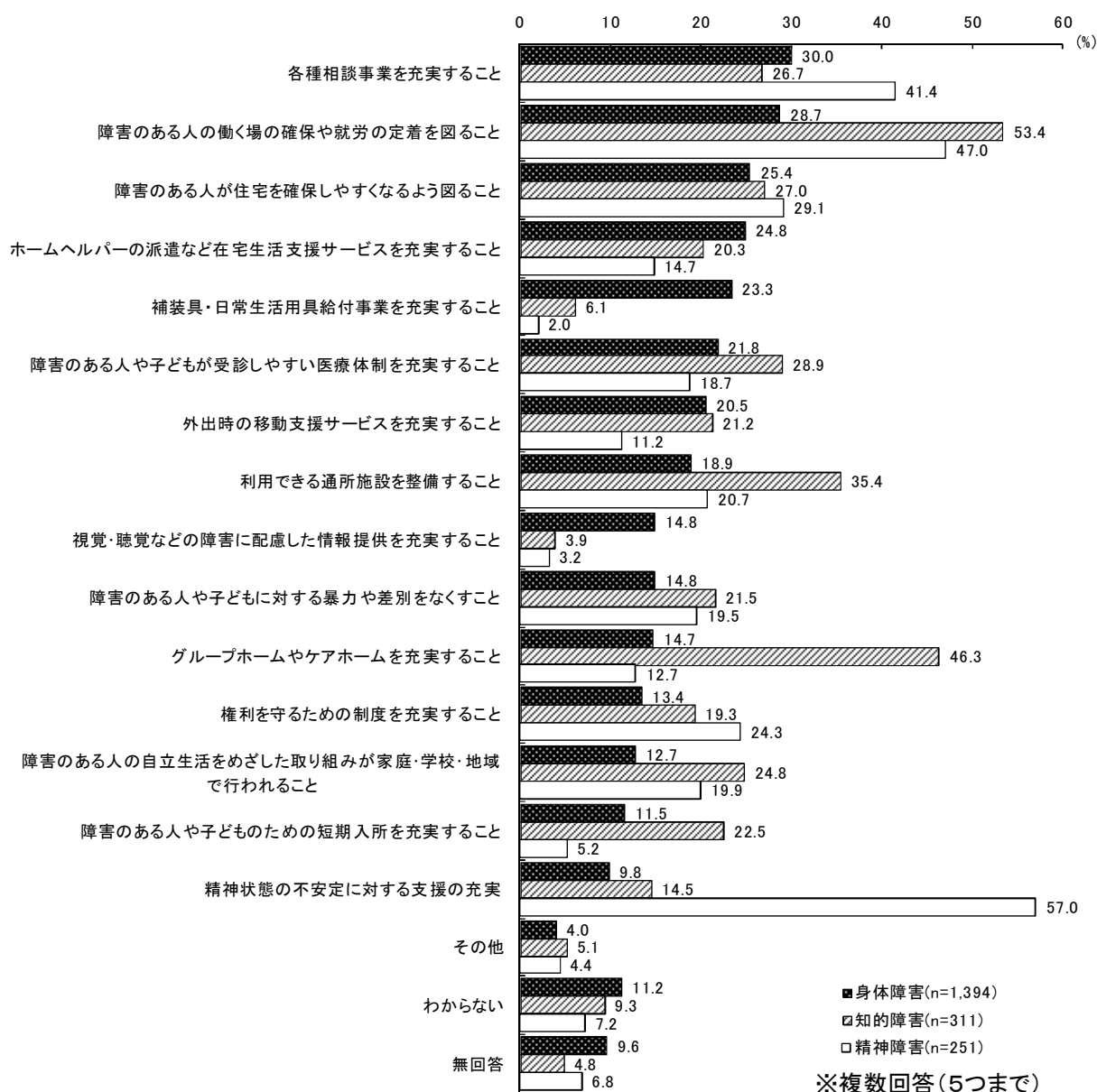
- 身体障害者は、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき(33.8%)」が最も多く、「トイレや駅などが利用しにくかつたとき(32.2%)」、「自分のことがわかつてもらえないとき(30.3%)」が続いています。
- 知的障害者は、「知らない人からじろじろと見られるとき(58.6%)」が最も多く、「自分のことがわかつてもらえないとき(48.9%)」、「傷つくことばを言われたとき(40.9%)」が続いています。
- 精神障害者は、「自分のことがわかつてもらえないとき(55.0%)」が最も多く、「傷つくことばを言われたとき(37.9%)」、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき(27.8%)」が続いています。



充実を望む施策

市に充実を望む施策をたずねました。

- 身体障害者は、「各種相談事業を充実すること(30.0%)」が最も多く、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(28.7%)」が続いています。
- 知的障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(53.4%)」が最も多く、「グループホームやケアホームを充実すること(46.3%)」が続いています。
- 精神障害者は、「精神状態の不安定に対する支援の充実(57.0%)」が最も多く、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(47.0%)」が続いています。

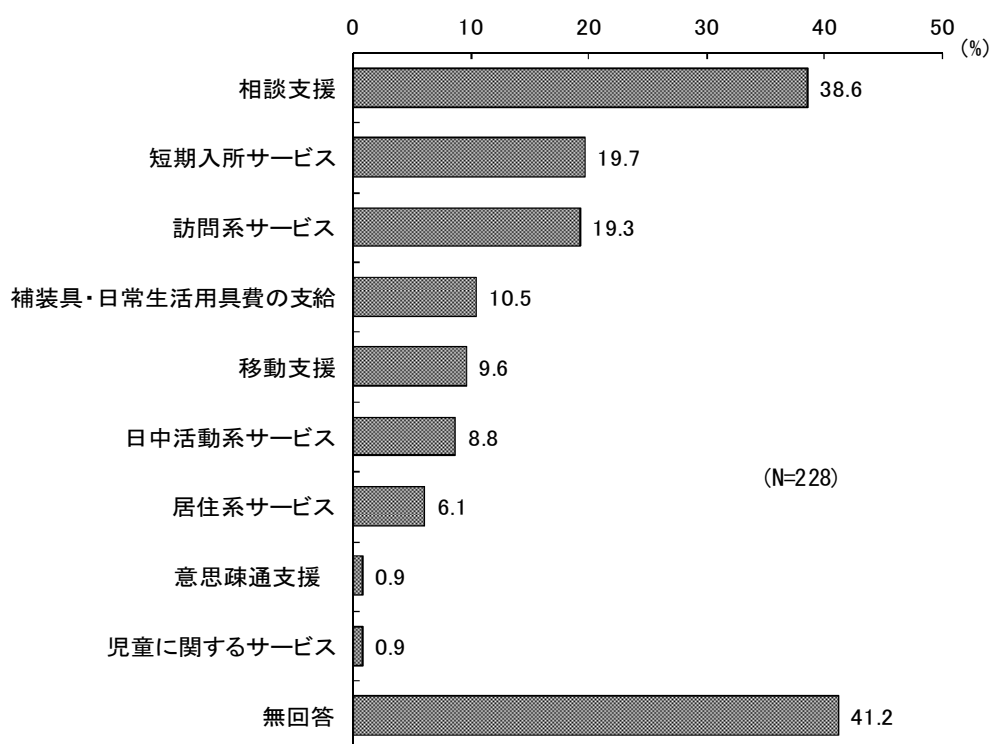


(2) 難病のある人の調査

障害福祉サービスの利用意向

今後利用したい障害福祉サービスをたずねました。

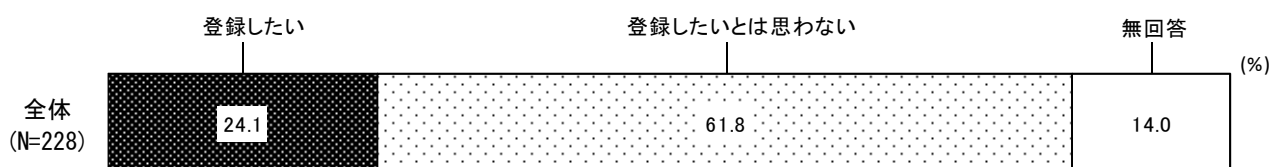
○「相談支援(38.6%)」が最も多く、「短期入所サービス(19.7%)」、「訪問系サービス(19.3%)」が続いています。



災害時要援護者支援名簿の登録意向

災害時要援護者名簿に登録したいかたずねました。

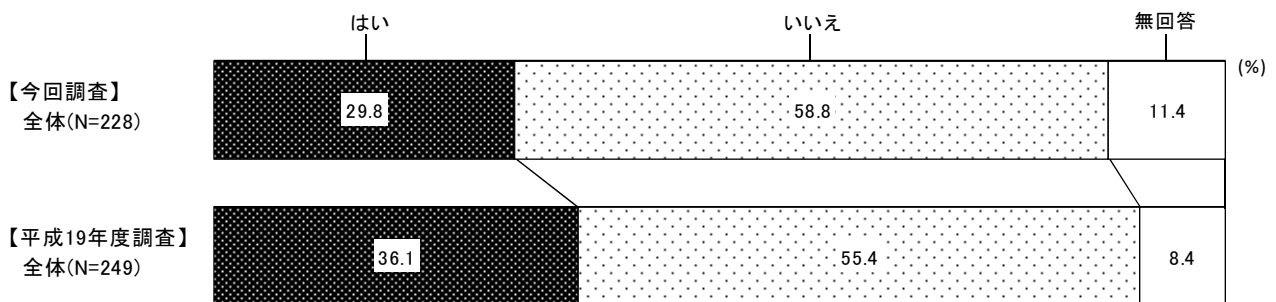
○「登録したい」が24.1%、「登録したいと思わない」が61.8%となっています。



府中市民のノーマライゼーションの理解

共生社会(ノーマライゼーション)が府中市民に十分理解されているかたずねました。

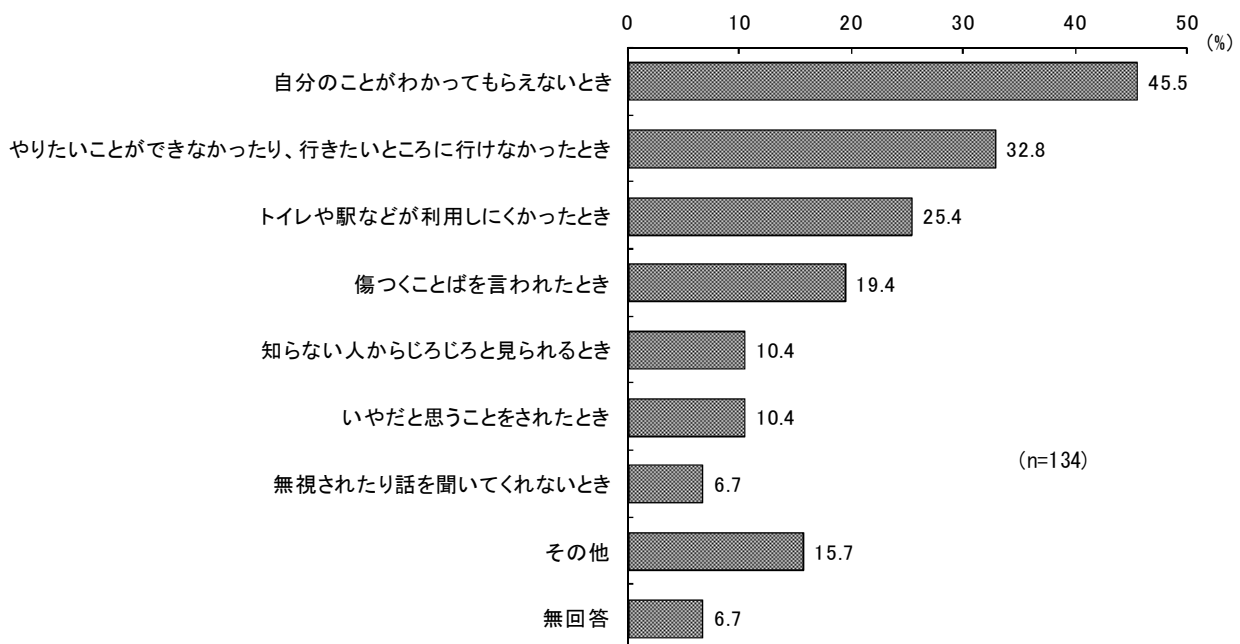
- ノーマライゼーションが理解されている(「はい」)の割合は、29.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、理解されているとする割合は6.3ポイント低くなっています。



ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき

共生社会(ノーマライゼーション)が市民に十分理解されていないと思うと回答した人に、どのような時に感じるかたずねました。

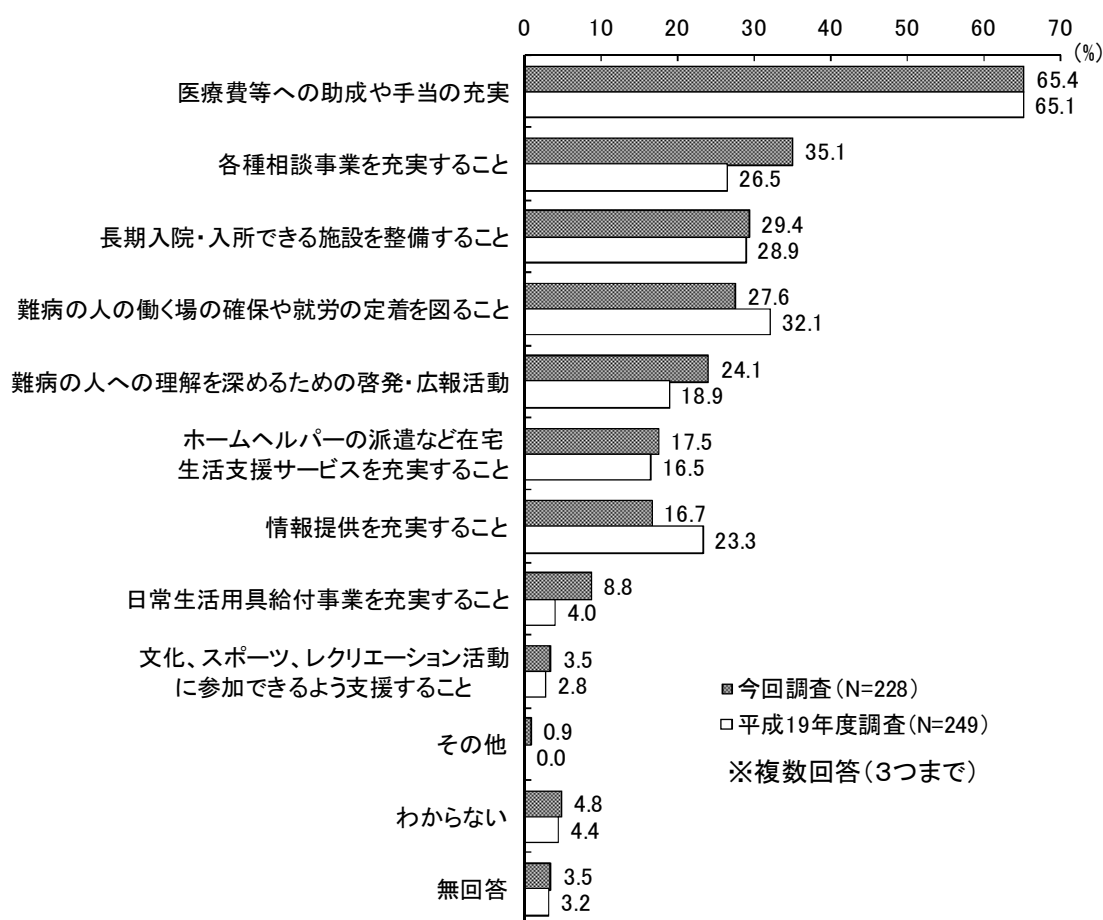
- 「自分のことがわかってもらえないとき(45.5%)」が最も多く、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき(32.8%)」、「トイレや駅などが利用しにくかつたとき(25.4%)」が続いています。



充実を望む施策

市に充実を望む施策をたずねました。

- 「医療費等への助成や手当の充実(65.4%)」が最も多く、「各種相談事業を充実すること(35.1%)」、「長期入院・入所できる施設を整備すること(29.4%)」が続いています。
- 前回調査と比較すると、「各種相談事業を充実すること」、「難病の人への理解を深めるための啓発・広報活動」の割合が5.0ポイント以上高くなっています。



関連する自由回答の抜粋

- ・ 電車に乗って通院するのが大変なので、タクシーなどを利用したいのですが、お金がかかります。(女性、35～39歳)
- ・ 今後進行していくに応じて相談をしたくなるが発生すると思います。医師は生活の実際の状況を見てくれるわけではないので、困ったときにすぐに対応してもらえる窓口が身近にあると安心できると思います。(女性、60～64歳)
- ・ 他人に分からない体の中の難病を理解してもらいたい。(女性、65歳以上)

(3) 障害者福祉団体調査

活動する上で困っていること

障害者福祉団体が活動する上で困っていることをたずねました。

○活動する上で困っていることは、「後継者問題」と「財政的支援」が7団体で最も多く、「会員の意識(5団体)」、「活動場所の確保(4団体)」が続いています。

(N=8)	団体数	割合(%)
事業の企画	0	0.0
運営方法	2	22.2
活動場所の確保	4	44.4
会員の意識	5	55.5
後継者問題	7	77.7
社会の認識	3	33.3
ネットワークづくり	1	11.1
行政支援	2	22.2
財政的支援	7	77.7
人的支援	2	22.2
その他	1	11.1
特にない	0	0.0
無回答	0	0.0

※複数回答

自由回答では

◆災害時に心配なこと、支援としてあったらよいこと

避難所への意見が多くなっています。障害のある人向けの避難所の設置、それぞれの障害に応じた薬、機器、物資の用意、情報伝達方法、専門職の対応の検討が求められています。避難所設営マニュアルに関する意見を各障害者団体から聞いてほしいとの意見もありました。また、近隣の助け合い、要援護者の把握、名簿登録の重要性等に対する意見も多くなっています。

◆共生社会に向けた市民向けの意識啓発に協力できること

多くの団体が啓発活動における講師等としての支援ができると回答しています。

◆市の障害福祉施策への意見・要望

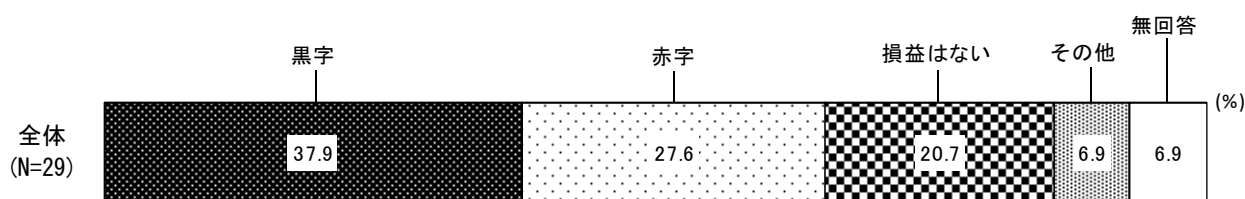
就労支援、バリアフリー教育、発達支援センター自立支援協議会、財政的支援について等、各団体から様々な意見が寄せられています。

(4) 障害福祉サービス事業所調査

昨年度の事業の採算

昨年度の事業の採算についてたずねました。

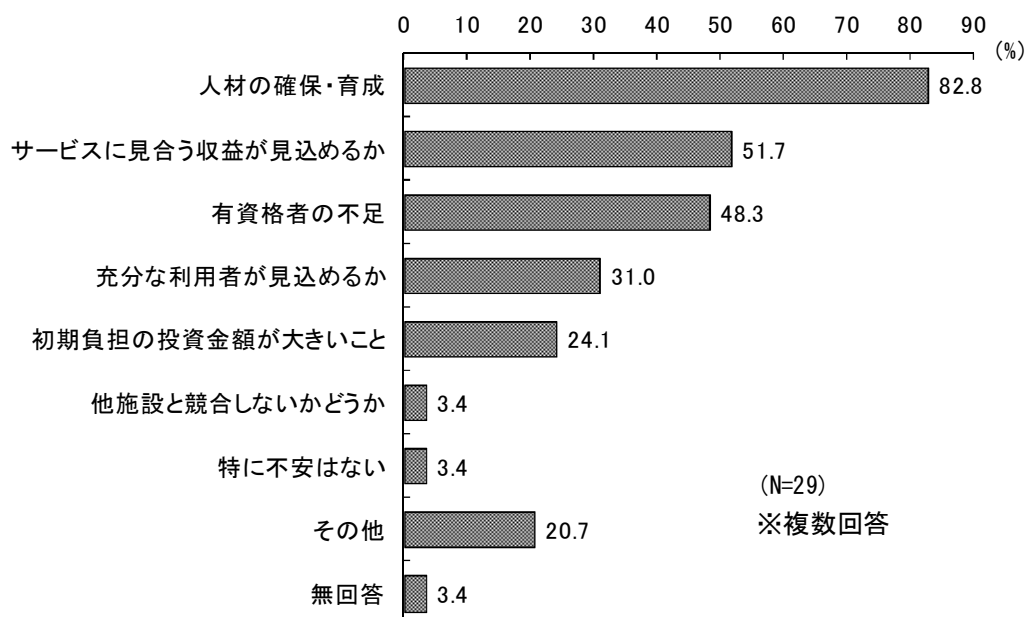
○「黒字」が 37.9%、「赤字」が 27.6%、「損益はない」が 20.7%となっています。



運営上の不安

運営上の不安についてたずねました。

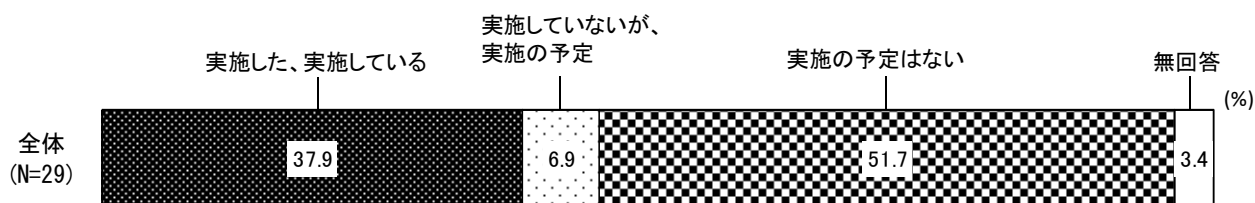
○「人材の確保・育成(82.8%)」が最も多く、「サービスに見合う収益が見込めるか(51.7%)」、「有資格者の不足(48.3%)」が続いています。



第三者評価の実施

第三者評価の実施の有無についてたずねました。

○「実施した、実施している」が 37.9%、「実施していないが、実施の予定」が 6.9%、「実施の予定はない」が 51.7%となっています。



災害時の障害のある人への支援で協力できること

市の障害福祉サービスの充実に向けて必要なことをたずねました。

○「在宅サービス利用者への安否確認(82.8%)」が最も多く、「在宅の災害時要援護者の避難支援への協力(55.2%)」、「施設を福祉避難所として活用することへの協力(37.9%)」、「障害のある人の避難場所へのヘルパー等人材の協力(27.6%)」が続いています。

